

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2014年03月04日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2012000054"/> 整理番号 <input type="text" value="11757"/> 担当者 <input type="text" value="小野 洋一"/>
表 題	<input type="text" value="リグニン類からベンゼン環構造を含まない新規有機蛍光物質のバイオプロセスによる生産"/>
技術分野	<input type="text" value="有機材料"/> <input type="text" value="食品・バイオ"/> <input type="text" value="化学・薬品"/> <input type="text" value="ナノテクノロジー・材"/>
適用製品	<input type="text" value="新規蛍光素材・塗料、研究用試薬、臨床用試薬、有機ELなど。"/>
目 的	<input type="text" value="Pseudomonas sp. ITH-SA-1株は、低分子リグニン的一种であるシリングアルデヒド(SYAL)を培地に添加して培養した場合、SYAL中間代謝産物の重合体と考えられる有機蛍光物質を生産する。本蛍光物質は、優れたpH耐性、熱耐性も有しており、本研究では、リグニン類化合物からバイオプロセスによって生産されたベンゼン環構造を含まない炭化水素からなる新規有機蛍光物質及びその製造方法を提供する。"/>
技術概要	<input type="text" value="一般に炭化水素からなる蛍光物質には、ベンゼン環構造が含まれている場合が多いが、本蛍光物質にはベンゼン環構造を検出することは出来なかったことから、構造的に新規性が高いと考えられている。また、低分子リグニンから生産できることから、将来的に廃木材等の未利用木質系バイオマスを高付加価値化することが可能と考えられる。
現在、木質系リグニンのバイオマス資源としての有効活用は、セルロース系バイオマスなどと比較してあまり進んでいない。一方、蛍光物質は研究用試薬のみならず、高感度・特異的に可視化できることから、蛍光塗料・有機LED・バイオ医薬分野などで幅広く応用されている。本株における生産のための基本培養条件は既に確立している。また、ラボレベルで簡易的に分離、精製できる条件も確立していることから、今後、スケールアップしていくことで事業化ベースに乗せることは可能と考えられる。"/>

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>
会社名	<input type="text"/>
所 属	役職 <input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/> FAX番号 <input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>
連絡事項	<input type="text"/>



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp